

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881
宗教法人日本バプテスト連盟総務部

福島は今～原発30km圏からのレポート<2>

笹子美奈子（新聞記者・目白ヶ丘教会員）

茨城県大洗町の日本原子力研究開発機構大洗研究開発センターで6月6日、保管されていた放射性物質の粉末が室内に飛散して、作業員ら5人に付着する事故がありました。

後に訂正されましたが、1人の肺から2万2000ベクレルのプルトニウムが検出されたと発表されました。この一報を聞いた時、私はギョッとしました。2万2000ベクレルというのは異常に高い数値だからです。

ベクレルというのは放射性物質の単位で、放射線量の単位にはシーベルトが日本ではよく使われます。一般の人々にとって馴染みのない単語だと思いますが、福島県民は毎日耳にする言葉です。福島県内の放射線量は毎日テレビのニュースで、まるで天気予報のように周知されます。県内各地に放射線量の観測地点があり、公園にもモニタリングポストと呼ばれる観測装置がまるで百葉箱かのように置かれ、放射線量の数値を表示しています。

福島県内の小学生はガラスバッジと呼ばれる小さな線量計を身に付けて登下校しています。被曝線量の年間積算値をモニタリングするものです。ガラスバッジではないのですが、私も福島支局に赴任した初日に、携帯用の被曝線量計を会社から渡され、常時持ち歩くように言われました。毎日の被曝線量を上司に報告しなければならず、一定の数値を超えると人事異動になりました。

放射線量計というのは精密機械で、頻りにメンテナンスに出さなければなりません。メンテナンスを怠ると、ありえない場所で異常な値を示すことがあります。品質もピンからキリまであり、常時正しい数値を計測するのは実は難しいのです。たまたま計測された異常値を信じこみ、「あの場所はホットスポットだ」とあつという間にロコミで広がるのがよくあるのです。もちろん本当のホットスポットもあるのですが、東京ではもう騒がれることはありませんが、福島県内ではいまだにこうした混乱が続いているのです。

写真は筆者が使用していた「携帯用の被曝線量計」と公園に設置されている「モニタリングポスト」→



【原発課題班推薦】 笹子美奈子さんの著書紹介（角川新書） 864円（税込み）

リンゴが腐るまで 原発30km圏からの報告 - 記者ノートから -



東日本大震災による東京電力福島第一原発事故の被災者の取材で目にしたものは、その約10年前、2004年の新潟県中越地震の被災地の取材で見聞きしたと同じことが繰り返されていた。お年寄りの孤独死、アルコール依存症、家庭の崩壊、様々な差別と分断によって生じる地域住民間の不和、帰る帰らないの問題・・・など、目のあたりにした現実をキリスト者である新聞記者の著者が訴え報告する。

3a (スリーエー) in 郡山 出会いから問われること

郡山コスモス通りキリスト教会 金子千嘉世

震災を通して、郡山に住んで7年目。あちこちの「除染」風景や窓を開けない、洗濯は外に干さないという生活にも慣れ、また、県内の野菜はみな、線量を計測して「安心」のお墨付きのついた物しか売られていないということを信じて暮らすことがいつの間にか当たり前になっておりました。ところが、昨年、東北ヘルプを通して、「3a」というグループとの出会いに導かれました。

3a「安心・安全・アクション」の3本柱を掲げ、震災直後に放射能についての対策として小さな子供達を育てているお母さん達が立ち上げた市民グループです。夏には日本基督教団主催の保養プログラムや様々な団体の計画にそって子供達を保養に出しておられます。また、自宅の線量計測サポートや甲状腺エコー検査の案内、勉強会なども開催。そして、毎週火曜日は「お野菜マルシェ」を10時より16時まで開店し、西日本地域から野菜を仕入れて販売しておられます。今は奈良産の小松菜やほうれん草、タマネギ、ジャガイモ、人参などが陳列棚に所狭しと並びます。お野菜マルシェは火曜日だけなのですが、月曜日から金曜日の10時から16時まで毎日、3aの事務所は開いています。放射能汚染を通して、衣食住、人間関係、学校や幼稚園の環境の事等々、心配ごとを抱えておられる方の声に耳を傾ける為なのです。

私は元幼稚園教諭だったため、東北ヘルプ経由でちょっとお母さんたちの話や子供達の様子を見てほしいと依頼があり出向いたのが出会いのきっかけでした。それはちょうど、放射能になれきってしまった時でした。この方たちとの出会いを通して、緩んだ気持ちを引き締め直すことができました。

先日は「避難マニュアルと体操&食事」についての講師として私を招いてくださり13人の方々と郡山ならではの出会いをいただきました。「金子さん、次、何を？」ここには私のしたいことがたくさんある。主にある出会いに本当に感謝。

<3aの活動紹介>

- ◇ お野菜マルシェ：西日本産を中心に安心野菜を取り寄せ販売
- ◇ 放射能測定室：微量放射線測定器での測定と機器レンタル
- ◇ 健康診断の費用補助：新生児を対象に医療機関紹介と費用補助
- ◇ 情報ステーション：福島の子どものための保養に関する情報提供

写真はパンフレットとお野菜マルシェの売り場 →



現地支援委員会より～現在継続している支援活動

現地支援委員会 金丸 真（仙台長命ヶ丘教会）

2017年度が始まりましたが、東日本大震災から6年が経ち、被災地それぞれの支援活動に変化が出てきました。以下に現在継続している支援活動の様子をお知らせします。お祈りとご支援をよろしくお願いいたします。なお、個々の詳細については、担当教会にお問い合わせください。

- ◆ 岩手県大槌町（安渡・小槌）支援：仮設住宅でのお茶会、訪問（年数回）。担当は盛岡教会、山形教会、郡山コスモス通り教会。
- ◆ 宮城県石巻市牡鹿半島支援：仮設住宅でのお茶会や音楽療法、野菜配布など（1ヶ月に1回）。担当は仙台教会（窓口）、南光台教会、大富教会、仙台長命ヶ丘教会。
- ◆ 宮城県亘理町支援：仮設住宅を出られた方々や復興住宅の独居高齢者を訪問する働き（2ヶ月に1回）。担当は仙台長命ヶ丘教会。
- ◆ 福島県郡山市緑ヶ丘仮設支援：緑ヶ丘仮設住宅でのお茶会など（2ヶ月に1回）。担当は郡山コスモス通り教会。

写真は牡鹿半島にお住まいの方→



2017年震災募金報告 目標600万円 5月累計：426千円

<2017年4～5月 募金者17名・件（受付順、敬称略）> 感謝申し上げます。

赤塚、諫早、姪浜、南九州地方連合小羊会、調布、湘南台、西南学院（2件）、久保祐子、高知伊勢崎、西南学院「震災を忘れない募金」、東京北女性会、調布、税所昭二、古賀、大村古賀島、福岡

◆ 「祈りの絆」前号（第43号）にてご報告の「2017年震災募金報告」は「2016年度震災募金報告」の誤りでした。お詫びし訂正させていただきます。

